

とは学生と教職員の健康を守るという観点から言語道断の愚行ですが、人々が（若者だけとは限りません）リアルな肉体をもって集い、勉強以外の時間を共有するというこの意味を根本的に考えてみる必要があることは確かです。1983年のベストセラー『構造の力』で一世を風靡した浅田彰が、「勉強だけでなく他にもっと効率のよいやり方があり、学校はむしろ社交を学ぶ場である」といった趣旨の発言をしていたと記憶していますが、インターネットなど影もかたちもなかった当時、先見性があったというべきでしょう。

ただし、私が相談を受けた学生の中

には、昨年度からコロナ禍で電車通学をしなくてよくなったおかげでメンタルヘルスが改善し、無理だと思っていた4年間で卒業できる見通しが立ったという例もありました。コロナ禍の影響は人や職種によってさまざまです。その実態を見極めることは、社会学や社会福祉学の重要な課題です。

その課題に応えるために、当研究所が担当する「2021年度明治学院大学公開講座」（10月の各土曜日・オンライン開催予定）では、コロナ禍の社会的影響を真正面から取りあげることになりました。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。（所長：加藤 秀一）

研究所各部門から

2 調査・研究部門

「調査・研究部門」では、社会学・社会福祉学の調査・研究プロジェクトを実施しています。プロジェクトには、科研費等外部資金研究の準備や補完、講演等企画のための少人数の単年度プロジェクトである「一般プロジェクト」と、両学科スタッフの相当数が参画する2～3年度の大規模共同研究である「特別推進プロジェクト」の2種類があります。

昨年度（2020年度）は、「宇宙倫理学の基礎研究」（代表 稲葉振一郎）、「施政権返還後の硫黄島民——故郷喪失者の集団性をめぐって」（代表 石原俊）、「在日外国人等を対象とする教育・生活支援施策の展開と現代的課題」（代表 坂口緑）、「恋愛関係の初対面状況における外見機能について再検討」（代表 鬼頭美江）の4件の「一般プロジェクト」が実施されました。「特別推進プロジェクト」は行われておりませんでした。これらの成果につきましては、次号『研究所年報』（2022年3月刊行予定）やその他学術雑誌等で今年度中に公開さ

れる予定です。なお、今まで年報掲載の論文のどれが成果にあたるかわかりづらくなっておりましたので、次号より年報末尾に明示する予定です。

本年度（2021年度）の「一般プロジェクト」の詳細については、本号の「プロジェクトの紹介」をご覧ください。学外者を含む4つのプロジェクトが鋭意活動しております。「特別推進プロジェクト」は行われておりませんが、2017年度～2019年度実施の「内なる国際化に向けた生活保障システムの再編」にて、年報掲載論文とは別に、独自の報告書の編纂を進めていることです。なお、本年度も引き続き、新型コロナウイルス問題により、調査・研究活動に大きな制約が出ております。都道府県をまたぐ移動が制限されている期間もありますが、各プロジェクトともオンラインの活用も含めて計画の柔軟な修正を行いながら遂行していますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

現行の調査研究プロジェクトの体制になってから時勢も変わり、学部専任教員のメンバーも変わってまいりました。今年度に関してはコロナ禍の影響もありますが、それ以前より申請件数

減少の傾向が見られます。そのため、調査研究部門では、昨年度から、プロジェクトのスキーム自体の改良可能性を議論しております。昨年度は、FDや社会貢献を目的とする特別推進プロジェクト申請が可能となるような規定の改定を行いましたことをご報告いたします。

（主任：元森 絵里子）

3 相談・研究部門

「相談・研究部門」は、①講座や学習会の企画と開催、②地域活動に関する相談支援、③情報の収集と提供を3つの柱に、人々が暮らしやすい地域づくりに取り組んでいる機関や団体、そして市民のみなさまの活動を支援しています。これまで相談・研究部門は「多様な家族が孤立しないために私たちができること」を活動のメインテーマとし、社会的孤立への防止に取り組んできました。今後は、これまでの「家族」から「個人」も含め、対象を広げて活動していきたいと考えています。

2020年度はコロナ禍のため、相談・研究部門の地域活動も制限され、計画通りの実践ができませんでした。例年のように、フィールドで地域のみなさまと活動できませんでしたが、昨年11月には社会福祉の実践家の方々を対象としたフォーラム、「社会福祉実践

明治学院大学社会学部付属研究所主催
第34回社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会

2020年11月28日（土）13:00～16:00

<テーマ>

**コロナ禍における
本人と家族に対する
支援の現状と課題**

参加費無料

～いま、ソーシャルワーカーに求められる支援力へ～

<第1部>

○講師による話題提供

- ◆山本 暢彦氏（鶴見区基幹相談支援センター）
- ◆中尾 健太郎氏（横浜市東部地域療育センター）
- ◆染田 晴氏（高輪地区高齢者相談センター）

○質疑応答

<第2部>

○グループワーク

- ・フレイクアウトルームに分かれて意見交換
- ・各福祉現場での取り組み状況の共有
- ・新たなニーズと今後の課題

○グループごとの意見集約とまとめ

ZOOM
によるオンライン研修

*本研修会は、社会福祉の諸領域で活躍する社会福祉実践家の皆さんの学びの場です。参加申し込み要領は4ページをご覧ください。参加費はかかりません。

家のための臨床理論・技術研修会」をオンラインで開催しました。「コロナ禍における本人と家族に対する支援の現状と課題～いま、ソーシャルワーカーに求められる支援力～」をテーマとし、3名の講師をお招きして、緊急事態宣言下における児童発達支援センターの取り組みや、相談支援現場における現状と課題、高齢者支援現場から見えることについてお話いただきました。その後に参加者のみなさまとのグループワークを行い、様々な対応を迫られるコロナ下でそれぞれの社会福祉の現場ではどのような実践を行っているかを共有し、意見交換を行う有意義な機会となりました。

また、今年の3月には地域の実践家や市民のみなさまと学び合う市民講座として、地域創り担い手学習会を開催しました。こちらもオンラインでの開催となり、「コロナ禍と若者支援～いま、若者と家族に何が起きているか～」をテーマに、2名の講師からコロナ禍における高校生支援と支援を必要としている若者へのアウトリーチについて学び、参加者のみなさま方との情報共有を行いました。これまでの対面での学習会では首都圏の方々のご参加がほとんどでしたが、この度オンラインで初めて開催する運びとなり、沖縄県や山形県など全国から50名を超える方々に参加いただきました。地域特有の課題や地域を越えて共有できる支援のあり方など、新たな学びの場となりました。

経験したことのないコロナ禍の状況で、社会福祉現場も対応に追われています。相談・研究部門の活動も変化を余儀なくされていますが、今だからできることに積極的に取り組み、人々が暮らしやすい地域創りに向けて市民のみなさまと共に考えていきたいと思えます。

(主任：明石 留美子)

明治学院大学社会学・社会福祉学会(通称「学内学会」)は、学生、卒業生、教員の協力・共同によって学生の自主的な学習・研究能力の向上、実践・研究活動の充実を図り、社会学部の発展と社会貢献をめざす組織です。会員には社会学部に在学するすべての学生、卒業生、教員が含まれ、研究雑誌『Socially』の発行、研究発表会や講演会の企画・実施などを手がけています。

実質的にこの学会を支えているのが、在学生のボランティアな参加によって成り立つ「学生会」という組織です。今年度からこの学生会に新たな愛称がつけられ、「STEP」という名前で活動の活性化を図ることになりました。STEPには「Student / Team / Enjoy / Project」という4つのキーワードの意味が込められており、これまで以上に学生メンバーに楽しく創造的な学習・研究活動を推進していくために卒業生・教員によるバックアップ体制を整えることを確認しています。

また、本学会を支えるもうひとつの柱である「卒業生部会」は、在生と卒業生をつなぎ、講演会等のイベントへの関わりを通して在生および卒業生自身の学び・生涯学習、さらには社会貢献を図るための組織として機能



●2020年11月の講演会のチラシ

しています。ボランティアな意思で本学会に参加し、本学や社会学部のために尽くしてくださる卒業生部会員の皆様には感謝の念でいっぱいです。

コロナ禍を受けた2020年度でしたが、主な活動実績を紹介します。

●総会：7月15日に総会(第30回)が行われました。コロナ禍となったためメールによる書面決議により実施されました。例年は講演会後に実施してきた特別講演会は中止となりました。

●卒業生交流会：10月31日に卒業生部会の主催による「卒業生交流会」がオンラインにより実施されました。これは社会福祉や教育現場で働く多くの卒業生の参加により、ワークショップ形式で在生と卒業生の交流を深め、かつ在生の進路選択に役立つものとして企画されたものです。

●講演会：11月11日に学生会の主催による講演会がオンラインにより実施され、社会福祉学科卒業生の柏村美生さんが「New normal時代の仕事を考える」をテーマに講演してくださいました。

●研究発表会：12月19日には恒例の研究発表会が開かれ、3つのzoomミーティングを用意してオンライン開催となりました。10人の報告者(学生・大学院生等)と5つのゼミが研究報告をおこないました。



●2020年11月の講演会(オンライン)の様子



●2020年10月の卒業生交流会(オンライン)の様子

●研究雑誌『Socially』の発行：2021年3月16日には学内学会編集の雑誌『Socially』第29号が刊行されました。研究論文の他に、「コロナ禍」をテーマとした特集記事や学生会主導で実施された座談会の内容等が盛り込まれました。

2021年度もコロナウイルスの感染予防のためオンラインによる企画実施が多くなりますが、これまで本学会に関わってこられた方々・卒業生のスピリットを継承し、かつ新しい学生会 STEPメンバーの思いを大切にしながら前向きな学会運営をおこなっていきたくと考えております。

(主任:金子 充)

5 市民講座報告/研修会案内

相談・研究部門では、2013年度から「社会的孤立」に着目してきました。2020年度はこれまでのメインテーマ「多様な家族が孤立しないために私たちができること」を引継ぎながらも、社会情勢を鑑み、新たに「コロナ禍におけるソーシャルワーク」というテーマで地域創り担い手学習会を開催しました。具体的には「若者支援」に焦点を当て、2020年11月に「コロナ禍と若者支援」という題目で実施しました。講師として、美濃屋裕子氏（ソーシャルワーカー事務所 SURVIVE 代表）、荒井和樹氏（NPO 法人全国こども福祉センター代表）をお招きし、フォーマルケア/インフォーマルケアの立場から現場の状況を報告して頂きました。また、参加者の方々による活発なグループワークが行われ、それぞれの実践を共有する大変貴重な機会となりました。2020年度はオンラインでの開催であったため、北は青森県、南は沖縄県と広範囲から参加して頂きました。報告書をご希望の方は社会学部付属研究所までご連絡ください。

2020年度 市民講座/地域創り担い手学習会

18都府県より ご参加いただきました。

ありがとうございました



「第35回社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会」 (通称:アドバンスコース)

日時

2021年11月27日(土)

13:00 ~ 16:00 を予定 (新型コロナウイルスの状況による)

内容

テーマ: 福祉現場からの実践報告— コロナ禍の女性支援において顕在化した課題 (仮題)

■話題提供 (13:00 ~ 15:00)

講師: 上記の内容に即した3名の講師をお招きする予定。

■ワークショップ (15:00 ~ 16:00)

グループに分かれディスカッションする予定

会場: ZOOM によるオンラインでの開催を予定

●連絡先

明治学院大学社会学部付属研究所
〒108-8636 港区白金台1-2-37
Eメール issw@soc.meijigakuin.ac.jp
TEL 03-5421-5204・5205
FAX 03-5421-5205

6 2021年度社会学部付属研究所プロジェクトの紹介

一般プロジェクト

- 宇宙倫理学の基礎研究 (代表: 稲葉 振一郎)
- 故郷喪失者としての硫黄島民— 島民2世・3世の集団性をめぐって (代表: 石原 俊)
- 多文化共生社会における外国人介護人材の「生活者」としての支援システムの構築 (代表: 金 圓景)
- NIPTのより良いあり方を考える研究 (代表: 柘植 あづみ)

7 2021年度社会学部付属研究所スタッフの紹介

所長	加藤 秀一
調査・研究部門主任	元森 絵里子
相談・研究部門主任	明石 留美子
学内学会部門主任	金子 充
所員	稲葉 振一郎
所員	平澤 恵美
所員	三輪 清子
所員	澤野 雅樹
所員	松波 康男
所員	宮崎 理
研究調査員 (調査・研究部門)	佐野 智規
ソーシャルワーカー (相談・研究部門)	末松 恵
助手	森 香苗
教学補佐	坂本 啓子
学内学会部門事務担当	坂口 和容